

平成23年9月
台風第15号豪雨から10年これまでの歩み

今後の取組について

「流域治水」への転換

- 川を流れる水の源は、川の上に降った雨だけではありません。
- 大地に降った雨も、地表を流れたり地中に染みこみながら、川に流れ込みます。この雨が川に入ってくる地域を「流域」と呼びます。
- これまでの治水対策は河川管理者による河川区域等の整備が主体でした。
- しかし、昨今の気候変動による水災害リスクの上昇によって、これまでの河川整備等だけの治水対策では流域を洪水から守り切ることができません。
- だからこそ、これからの治水対策は河川だけではなく私たちが生活する大地にも目を向け、流域に関わるあらゆる関係者(国・県・市町・企業・住民等)が協働して事前防災対策を進めていく必要があります。それが「流域治水」です。
- 例えば、各家庭で雨水を貯める施設を設置したり、水害時の自身の防災行動を整理したマイタイムラインを作成したり、一人一人の行動が流域治水の推進につながります。

流域治水のイメージ図



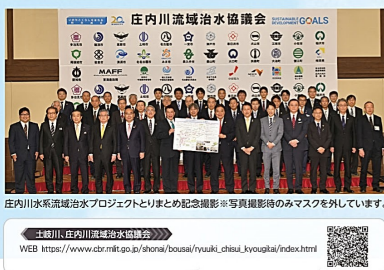
「庄内川(土岐川)水系流域治水プロジェクト」始動

庄内川(土岐川)水系流域治水プロジェクト

- ▶気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、流域に関わる関係者が、主体的に治水に取り組む社会的構築が求められます。河川・下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者により流域全体で行う治水、それが「流域治水」です。
- ▶庄内川流域は、日本経済を支える産業集積地域である反面、日本一のゼロメートル地帯を有する、水害リスクが高い地域です。平成12年9月には東海豪雨により、未曾有の都市型水害となった苦い経験もあります。
- ▶これらの背景を踏まえ、地域とともに水災害に強いまちづくりをめざすために、庄内川流域のあらゆる関係者(国・県・市町・企業・住民等)により、庄内川水系流域治水プロジェクトをとりまとめ、事前防災対策を進めていきます。

構成員			
多治見市	瑞浪市	恵那市	土岐市
名古屋市	一宮市	春日井市	
大府市	江南市	小牧市	
岡崎南城市	碧南市	清洲市	
あま市	長久手市	山崎町	
扶桑町	大治町	河津町	
岐阜県 国土整備部・都市建設部・林政部	多治見砂防国道事務所・庄内川(河川)課	多治見河川事務所	
林野庁 中部森林管理局			

オブザーバー			
国土交通省 中部地方整備局 建設部 河川部	岐阜県 国土整備部 建設部 河川部	日本下水道事業団	名古屋商工開発公社
中部電力株式会社	岐阜県 農政部	名古屋商工開発公社	
岐阜県 農政部			



東西を繋ぎ、日本経済を支える名古屋都市圏を水害から守る流域治水対策

庄内川(土岐川)水系流域治水プロジェクト プロジェクトの計画

土岐川、庄内川流域の特徴を踏まえ、狭帯部対策(橋梁改築)等の対策に加え、水害リスクの低い地域への居住誘導の推進、公園等を活用した高台の整備、地下空間・地区タイムラインの作成・周知等をあらゆる関係者が一丸となって実施します。

対策	内容	実施時期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防の強化、遊水地の整備、排水施設の整備、雨水貯留施設の整備、ため池等の活用、砂防関係施設の整備、海岸保全施設の整備	2023年度～2025年度
被害対象を減少させるための対策	居住誘導の推進、公園等を活用した高台の整備、地下空間・地区タイムラインの作成・周知	2023年度～2025年度
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	橋梁改築、遊水地の整備、排水施設の整備、雨水貯留施設の整備、ため池等の活用、砂防関係施設の整備、海岸保全施設の整備	2023年度～2025年度

主な整備メニュー

- 橋梁改築(旧新幹線橋等3橋)
- 浸水防止施設等の支援(扶桑町)
- 土岐川圏域
- 岐阜県
- 多治見市
- 土岐市
- 瑞浪市
- 恵那市
- 春日井市
- 小牧市
- 北名古屋市
- 大府市
- 岡崎南城市
- あま市
- 扶桑町
- 大治町
- 河津町
- 新川圏域
- 貯留貯蓄等の整備(名古屋)
- 公園等を活用した高台の整備(名古屋)
- 地区タイムラインの作成・周知(多治見)
- 出水前に希望する市民への土壌の事前配布(春日井)